

令和5年度幼稚園学校評価（上津幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価 評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	教育目標の4つのめざす幼児像を幼児に分かりやすい言葉「あいさつ」「諦めない」「なかよし」「よく遊ぶ」にし、活動のめあてや振り返りに取り入れた。取組を続けることで、幼児、職員の中に浸透していった。	4	4	今年度の取組を土台として、教育目標を指導計画に取り入れた学級経営をしていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の高から課題を捉えて保育を行っているか。	年中・年長児混合クラスのため、発達が異なる幼児の集団であった。職員は各年齢の発達と個人差を捉え、幼児一人一人への願いをもち、保育を行った。職員間での情報交換や話し合いを適宜もつことで、幼児理解が深まった。	4	4	幼児の言動から発達を理解し、遊びを通して成長を促す保育の実践に努める。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	幼児一人一人の実態や課題を職員間で共有し情報交換しながら、それぞれの立場で支援した。幼児通級指導教室との連携を図り、指導に活かせるように努めた。職員数が少ないため、幼児を多面的に捉える課題がある。	3	3	幼児の実態や課題から、段階を追った見通しをもった支援ができるように計画をたてる。また、職員が共通理解し、組織的な支援に努める。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	遊びや生活の中で、幼児が自分も人も大事に感じられるような関わりや支援に努めた。愛育会研修会で親学プログラムを取り入れた。園外の研修会に参加したりし、人権感覚を磨くよう努めた。	3	3	次年度も親学プログラムを取り入れ、保護者、職員とで研修したい。保育補助員も共に研修に参加できるように働きかける。また、研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	各行事のねらいを明確にし、昨年度の反省をもとに改善に努めた。年中・年長児合わせて5名という異年齢混合、少人数の中で、幼児が力を合わせてできること、自信や満足感につながる活動になるよう工夫した。	4	4	行事のねらいを明確にし、経験させたい内容を押さえた立案、実践に努める。少人数保育の中での行事の工夫をする。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	小学校との合同行事では、幼小での情報共有が難しく課題となった。交流活動については、年度当初に年間計画について話し合うことで見通しをもち計画的に実施することができた。	3	4	合同行事、幼児と児童の交流活動等、職員同士が連絡をとり合い、理解し合いながら連携が図れるようにする。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	保護者、地域共に園の取組に協力的である。保育公開、生活発表会等に運営協議会委員、地域の方を招き、幼児の育ちを見てもらった。幼児にとっても地域の人の温かさを感じるよい機会となった。	4	3	幼稚園での取組を保護者や地域に発信するやり方や内容を工夫し、分かりやすい伝え方に努め、理解を図る。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	今年度、研究主任が県の中堅教頭研修の該当だったこともあり、計画的に園内の研究や研修を行うことができた。市幼研や県の研修にも積極的に参加し、自己研鑽に努めた。	4	3	次年度も市や県等の研修に積極的に参加する。研修会に参加する機会が少ない補助教諭や補助員については、園内で研修会を企画し共に学べる機会を作る。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	年度当初、園務分掌で担当を明確にし、職員間で共通理解を図った。園行事は、担当者を中心に職員が連携を図りながら協力して取り組み、計画的に行うことができた。	4	3	園務分掌で担当を明確にし、職員一人一人が自分の役割を理解して園務を遂行するよう努める。職員同士が声を掛け合い、協力できる関係性を大事にする。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	年度当初、危機管理マニュアルや防災計画を作成し、全職員が理解して対応できるように努めた。有事の時に職員が理解して対応できるように、持ち出し物の確認や避難訓練を行い、共通理解を図った。	3	3	職員同士が声を掛け合い、有事の時には一人一人がやるべきことを理解して対応できるよう訓練や情報共有を行う。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	園舎内外の施設、遊具の点検を定期的に行い、必要に応じて市の配当金で修繕を行った。老朽化していた網戸の修繕を施設課の予算で執行してもらった。	3	3	定期的な安全点検と日頃の活動の中で安全管理を意識した視点をもつ。必要に応じて、施設課に相談し、幼児が健康で安全に過ごせるようにする。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する